

先生の自信（フィンランド教育視察より）

理事・副学長（教育担当）

上野ひろ美

■ 学力世界第一位のフィンランド

一月にフィンランドへ教育視察に出かけた。20年程前に子ども病院や幼稚園を視察したことがあり、久々のフィンランド訪問となった。視察団は岡澤訓祥学長補佐（就職担当）、小柳和喜雄学長補佐（教育課程担当）、松川利広学長補佐（入試担当）、そして上野の4名であった。当初は奈良県教育委員会の先生方にもご同行願う企画であったが、残念ながら日程調整がつかなかった。

視察目的は、OECD国際新学力調査（PIISA）で世界第一位という偉業を成し遂げたフィンランドの授業実践に触れ、当地で授業についての意見交換をすることだった。そして、その背景にあるフィンランドにおける教員養成の入口（入試）（中（教育課程））出口（就職）を貫いた、大学教育全体をとらえるという意気込みだ。

昨年のPIISA結果の発表以来、日本のメディアで頻繁に紹介されたフィンランドの授業風景を目にした時、「この種の授業は日本にもある」と直観した。にもかかわらず、世界が驚く成果を出したフィンランドと、学力低下を巡って揺れる日本——この違いはどこから来るのだろうか。それを知れたかった。

■ 「私たちが決めています」

訪問先はフィンランド教育省（文部科学省）、首都ヘルシンキ市教育局、公立の小・中学校、大学附属の中・高等学校、教員組合OAJ（校長を含む95%の教員が加盟している）、大学の教員養成学科、職業学校、日本語補習校と多岐にわたった。

これらの訪問先の中でも、「教育の機会均等」「子どもの学習のプロセスにおいて、間違いは必要かつ不可欠」「高度の資質を備えた主体的な教師を目指す」というように、異口同音に明快な教育原則が語られた。

90年代の教育課程制度の改革以来、権限がより教育現場に委ねられているのがフィンランドの特徴だ。教育省は総合教育方針とカリキュラムガイドラインを示し、地方自治体は実際の教育カリキュラムを編成して授業時間を定める。学校は年間の履修計画、科目編成とカリキュラムを決定できる。教員は勤務校の教育課程と教科書を決定できる。教育省のお役人も学校の先生も皆、「私たちが決めています」と教育課程の主體的な担い手であることを強調していた。

■ 教師は国民のローソク

フィンランドでは、教師は「国民のローソク」と称される。暗闇に明かりを照らす人、正しい知識やモラルの持ち主、テーブルの真ん中に立つ中心的存在といった意味である。

フィンランドの歴史を見ると、独立宣言（1917年）、戦争からの復興（1944年以降）、不景気（1990年代）など、大きな社会変化から国を立て直してくれたのはいつも教育だった。それぞれの時代のニーズに答え、教師は若者を育ててくれたと、国民は思っている。自然資源の少ないフィンランドにとって、教育を受けた人は資源であり、教育は財産なのである。



A先生の算数（6年生） 授業風景

海外教育視察



古都ボルボー市の小中学校にて



北極圏の町、ロバニエミにて



ボルボーの公立学校にて

教師の待遇は、同じ教育を受けた他の職業に比べると、必ずしもよいとはいえない。若い世代、男性さらには物価の高いヘルシンキなど都市部の教師に不満の声があるという。しかしながら、一生、勉強や研修ができる職種として、人々からの信頼はきわめて厚い。

それゆえ、大学の教員養成学科の入学倍率は概して6倍以上あり、今回の視察でわれわれが訪問したタンペラ大学の教員養成学科では、定員64名に1600人の応募があった。成績証明で320名に絞り、筆記試験、教えるという観点からの適性試験および面接によって64名を確定したとのことであった。

■ 素朴明快な教育原理

フィンランドの教師には修士号の取得が義務づけられている。学級担任教師（小学校）の場合、全科目を教えなければならぬので、卒業するには五年間かかる。中・高の教師の場合は専門科目の修士号に加え、かなりの（二年半かかる）教育学を勉強しなければならない。教師は「教科の専門家であると同時に、教育の専門家」なのである。

教材開発と授業実践の第一人者として評価の高いA先生（数学）が、授業でグループ学習を展開していた。子どもの学力差に配慮してグルー

プ編成をしているのかと尋ねたところ、「能力によって分ける必要はない。問題解決に大事なことは話し合うこと」「PISAの成功は、生徒達がいろいろな方法を使うことができるから」と語ってくれた。A先生の授業原理は明快であった。

A先生に限らず、先生たちは皆、明快に自分の授業の目標を語ってくれた。学力の競争ではなく、達成度と柔軟性を重視した授業展開、そのためには、教師の質と能力が鍵となる。

素朴明快な教育原則を内に持ち、方法を探りながら、先生が自信をもって授業をしている。これがフィンランド授業視察の最たる印象であった。